

煙体験など、年代・人数によって専門の職員が時間等を合わせ組み立てるようになってくる。

**問** 大雨の中、警報発令中に下校ということがあったようだが、今も10時ごろ発令した場合、給食終了後に職員が引率して下校している。午後からのゲリラ豪雨のように警報が出て、一時に集中、増水、

雨のきつい中、子どもが下校しているが、すぐに帰らせずに様子を見て学校で待機するなどさせないのか。

**答** 発令時の気象状況等から安全に帰宅させられると判断した場合、速やかに下校させ教職員による下校指導している。通学路の通行が危険と認められる場合や、通学距離により帰宅が困難と認められる場合には児童生徒の安全を校内において確認し、状況や情報により校園長の判断で行う。保護者同士の連携、校種同士の連携、校区内の幼稚園、小中学校間の連携を密にとるよう、管理職には連絡が取れる状態で待機するよう学校園に毎年、最初の校園長会で確認している。各校園より子どもたち、保護者にも周知し、

ある程度統一した形で配慮するようにしている。警報発令時は、学校園家庭連絡メールにより、子ども安全・安心メールとセットで加入できる危機管理課担当の防災メールへの積極的な登録を学校園を通じて保護者に呼びかけ、各学校が正確かつ迅速な情報のもとに的確な対応がとれるように求めている。

**問** 昨年3月に市職員が避難所開設訓練の図上、DIGの訓練をされたが、教職員の避難所開設訓練、DIGの訓練等はされているのか。

**答** 各学校園において地震発生時に対応可能な防災計画を作成し、職員研修等で共通理解を図り、子どもたちに対し避難訓練等、発達段階では、学習により防災能力の向上に努めている。DIGはやっていないが、先生の指導が非常に重要で、学校ごとで色々と研修は重ねている。

**問** 大規模災害での避難所開設は、防災計画に基づいて、どの部署が担当なのか。

**答** 避難所班の班長は社会教育課で、教育総務部が主となり、教育委員会全体で担当している。

**問** 東北の災害では中高生がかなり人命救助、避難を手助したと聞くが、中学生による避難経路、防災訓練DIGはしているのか。

**答** 学校では避難訓練等を通して防災能力の向上に努めており、さまざまな学習方法で防災意識を高めるように訓練している。

**問** かしはら安心パークができたが、学校行事での防災の取り組みに使っているのか。

**答** 昨年度は八木中学校が1回だけで、今後は学校の授業や遠足等でも利用いただけるよう各関係機関へ働きかけた。施設を知って、親しんでもらえるようなイベントも開催し広めていきたい。

**問** いつ発生するかわからない東南海地震に対し、子どもの防災意識を高めるためにも今後の子どもたちの学校行事、防災訓練をどのように取り組んでいくのか。

**答** 学校はその地域の1つの拠点、精神的、物理的な拠点である。災害時、子どもたちがいかに行動すべきか。当然生命の安全を第一として助けられるべき存在である。中学生は、体力的には大人と遜

ない頼りになる存在であり、災害のときに誰かを助けるなどの役割も担って、何かサポートのできる存在であってほしいと思っている。先生、危機管理課と相談して、子どもたちは地域から助けてもらう存在であるが、災害時にはお返しができるような、教育、体制をとればと思っている。



かしはら安心パークでの訓練

**訂正とお詫び**

前回発行致しました第189号について間違いがありました。訂正してお詫び申し上げます。  
 ・表紙 飛鳥寺跡  
 (誤) 特別史跡 → (正) 史跡  
 ・P3 下段 訴えの提起 (過払金返還請求)  
 (誤) 7件 ↓ (正) 6件

**行政視察受入**

(平成26年5月29日以降)

視察日	市町村名	視察件名	人数
7月3日	広島県尾道市(民生委員会)	・ふれあい収集について ・子ども総合支援センターについて	9